

2019 年度 センター試験 地理 B (本試験) ワンポイント解説

第1問	問1	アは熱帯地域で、赤色のラトソルが分布しているため誤り。
	問2	B は中央に古期造山帯のウラル山脈がそびえ、東側は西シベリア低地、西側は東ヨーロッパ平原が広がる。ウラル山脈は東経 60 度とほぼ並行する。①は D、③は A、④は C である。
	問3	エニセイ川はシベリアを流れる川で冬季は結氷するため、初夏に融雪水が一気に流れ込むことから H であると判断できる。次に、赤道直下を流れるコンゴ川は年中多雨であるため、水量が多い F と判断する。
	問4	ケープタウンは南半球にある代表的な Cs(地中海性気候)の都市である。そのため、1 月が高温乾燥である①であると判断する。
	問5	図 6 を見ると、グリーンランド北部は温暖化の影響が小さく、2012 年段階でも海氷が分布しているため、海岸浸食の影響は東シベリアのほうが著しいと考えられる。
	問6	図 7 の下の文章の 2 行目に「中緯度地域にまで達する」とあるため、この問題でいう中緯度は日本付近を指す。日本付近の卓越風は偏西風であるため、その向きは東向きである。
第2問	問1	コーヒーの生産はブラジル、コロンビアなどの南米が多く、90 年以降はベトナム、インドネシアなどアジア諸国の生産が急増していることから④であると判断する。
	問2	アラビカ種の原産地はエチオピア南西部のカフファ地方である(アラビカ種という名称は最初に広まったのがイエメンであるため)。
	問3	三大嗜好品(コーヒー、カカオ、茶)はいずれも植民地で発展した作物であり、その経緯を考えれば、統括拠点は生産国ではなく消費国(旧宗主国)にあると考えられる。
	問4	サトウキビは熱帯性の作物でブラジルが世界一の生産量を持っているため、②はブラジルである。サトウキビの生産が見られない③はロシアであるとわかる。残った①と④は生産量から判断する。
	問5	ベトナムは低賃金労働力を背景に 90 年代から工業化が進み、電気機械・繊維製品の輸出国となっている。
	問6	喫茶店の分布についての出題は斬新であった。喫茶店は東京・大阪などの大都市に多いため「ウ」であるとわかる。水産食料品生産業は内陸県で生産が小さくなっている「ア」であると判断できる。
第3問	問1	「ウ」の歴史的な町並みを残す旧市街地区はパリ中心部である C と判断できる。「ア」の現代的なオフィスビルや商業施設が集まる新都心地区はラ・デファンスで B である。パリの街について知識がないと難しい問題。
	問2	巨大企業の本社数が多い①は北京、首都に人口が集中している②はソウル、首都でありながら人口が少ない④はキャンベラと判断できる。
	問3	ヤンゴンにはミャンマーの旧首都でエーヤワディ川の河口に位置する都市である。①は長江中流のチョンチン(重慶)、③は綿織物のキーワードからリヴァプール、④はガンジス川流域でヒンドゥー教の聖地であるヴァラナシである。
	問4	中南米はスペインによるカトリックの強制布教が行われたことから、アルゼンチンもキリスト教カトリックである。
	問5	「キ」は古代の条里制の遺構である。「ク」は近世の城下町で「カ」は戦後に開発された新しい町である。
	問6	国宝は京都・奈良に集中している「サ」であるとわかる。次に、北海道に多くみられる「ス」を国立公園の広報・展示施設と判断する。
第4問	問1	ディナルアルプス山脈からアドリア海に吹き降ろす冷涼な風はボラである。フェーンはフェーン現象の由来となっている、気温を上昇させる山越えの風である。
	問2	ボスポラス海峡は東側(アジア)も西側(ヨーロッパ)もともにトルコである。
	問3	高温乾燥を好むナツメヤシは北アフリカにみられる「カ」であるとわかる。温帯から冷帯地域で栽培されるテンサイは「キ」であるとわかる。コルクガシは地中海沿岸部のみに分布する。
	問4	原油依存度が高いアルジェリアは「サ」、工業製品比率が高いイスラエルは「ス」であるとわかる。
	問5	イスラム世界における迷路状都市は旧市街に見られる。新市街地では自動車交通の円滑化のため、迷路状の街にはなっていない。
	問6	エクアドル、コロンビアが入っている③はスペイン。アルジェリア、チュニジアが入っている④はフランスであるとわかる。残る①②のうち、総受入数が少ない①をギリシャと判断する。

第5問	問1	国土のほとんどが東ヨーロッパ平原に位置するウクライナは 500m 未満の比率の高い「イ」である とわかる。雨温図では、年間降水量の少ない A をウズベキスタンと判断する。
	問2	小麦の生産が多い「カ」がウクライナ、綿花の生産が多い「キ」をウズベキスタンと判断する。表 3 では、ソ連時代からドニエプル工業地域での鉄鋼業が盛んなウクライナを D と判断する。
	問3	ソ連解体後の経済体制の動きは計画経済から市場経済への移行であり、①は逆である。
	問4	豚肉が少なく、羊肉が多い「サ」はウズベキスタンであるとわかる。羊肉がほとんど生産されない 「ス」を日本と判断する。
	問5	ウズベキスタンはトルコと同じアルタイ系言語で、ウクライナはロシアと同じスラブ系言語である。 街並みについては、モスクが見られる G をウズベキスタンと判断する。
第6問	問1	「イ」は山陽新幹線(新大阪～博多)、九州新幹線(博多～鹿児島中央)の開通により、大阪から の所要時間が飛躍的に短縮されたのが佐賀市である。東海道新幹線開通後に所要時間の短 縮があまり見られない「ア」は水戸市であるとわかる。
	問2	③は南東からではなく、北西からの季節風が正しい。
	問4	防砂林として存在している海岸部の森林はほとんど減少していない。
	問5	乾燥シイタケは森林地帯の内陸で栽培されるため「キ」であると判断できる。図1・図6から平野で 栽培される「カ」を早場米と判断する。
	問6	「サ」については文脈から判断。「シ」についても国道沿いではない地域で消毒ポイントが見られ る4月確認月地域であると判断する。